

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科

 上越市栄町 2-2-25
 TEL 025-544-7777(代)
 025-544-7779(保育室)
 FAX 025-544-8456

 各種ネット予約
 www.0255447777.com/i
 ホームページ
 www.kodomo-iin.com

今までにない「特別な夏」でした。新型コロナウイルスや猛暑で、大変な季節。秋を迎えますが、「普通の日常」にはいつ戻れるのでしょうか。この先も心配なことが続きそうです。

* * *

先日、安倍総理大臣が辞任を表明しました。持病の悪化が原因。



休養をとり、お体をいたわってください。

 ところで、最長任期になった安倍政権はどのよう

な政治をしてきたのでしょうか。私たち国民の暮らしは豊かになったのかな。政治や行政はより良いもの

になったのかな。現下の重要課題である新型コロナウイルス対応は適切だったのかな。

今回は、辞任表明の前から、病院に通院する姿が報道され、周囲の政権幹部に、疲れているから休みをとらせる必要がある、などと世論に訴えるようにさせてきました。

てつきり、病気だけに頑張った政権を維持している姿を見ているのかな、と書いていました。来年に延

期されたオリンピックを首相として成功させたいことでしょうか。

でも、違いました。やはり病状の悪化からか、精神的にも肉体的にももう限界なのでしょう。お疲れさま

残念ながら数々の疑問があります。それらを丁寧に説明し、次からの政権に活かしていくことは残された使命です。辞任して終わりではありません。これって、厳しすぎない？

感染症情報

今年春から小児の感染症罹患者は激減しています。夏になってもその傾向が続き、ヘルパンギーナや手足口病といった「夏かぜ」も全くといっていいほど発生がありません。子どもたちの健康状態は極めて良好といえるのかもしれませんが。

これは、新型コロナウイルス感染症の予防のためにマスク、手洗い、密集を避けるなどの対応をしていることが大いに関係しているものと思います。しばらくはこのような対応を続けることになりませんが、それが「冬のかぜ」(感染性胃腸炎やインフルエンザなど)の予防にもつながっていくものと思います。

その**新型コロナウイルス感染症**は、当地ではごくわずかの発生ですんでいます。首都圏など、都会では大きな流行になり(第2波)、今後地方に広がっていかないか、心配です。引き続き注意してください。

発生数は少ないのですが、**溶連菌感染症**と**アデノウイルス性咽頭炎**の発生があります。どちらも咽頭痛と発熱が特徴で、登園(登校)停止になる感染症です。溶連菌感染症は抗菌薬の治療が必要です。

感染性胃腸炎も若干の発生があります。小児は脱水や低血糖になりやすく、ぐったりとしている場合はすぐに受診して下さい。

食中毒による**細菌性腸炎**の発生も心配です。食品の衛生管理に十分注意してしてください。

風疹や**麻疹**の発生は当地ではありません。

インフル予防接種のご案内

- 9月8日(火)朝からネットでご予約を受け付けます。
- 接種は10月7日から始め、平日昼間(月・火・金)と土曜午後の専門外来で行います(土曜は10月24日より)。
- 料金は1回3,600円(10%消費税込み)。12歳以下は2回、13歳以上は1回の接種です。
- 今年もよろしくお願ひします。



<http://www.0255447777.com/i/>

今月の予定

院長出務

上越市夜間診療所出務 16日

上越市乳幼児健診 2、16日

上越有線放送 「健康ライフ」18日

FM上越 「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃~(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃~

上越有線放送: 月曜午後6時~(番組内)

全面リニューアル

1999年に開設した当院のホームページ（HP）。当時はインターネットが普及し始めたばかりで、わりと先駆的な存在でした。

HP作成の参考書を買って、それを見ながら試行錯誤。分からないことは専門の方にアドバイスをいただきながら、手作りしてきました。

それから20年ほど。時代は変わりました。当時はパソコンでしたが、今はスマホが中心。小さな画面では読みにくくなりました。何より平成の臭いが（笑）。

一念発起。今春から構想をねり、思い切って全面リニューアルを計画。今回はHPの枠組は業者に依頼し、スマホでも見やすいHPになるように作ってもらいました。

内容はこれまでのものを引き継ぎながら、でも新しい視点のページ作りに努めました。



ちょうど春からは業務量が少なくなり、集中して時

間をつくれるようになったのは良いタイミングでした（新型コロナウイルスのおかげ？）。

そして8月末になり、全面的に新しくなったHPを公開！

スマホにもスムーズに対応し、見やすくなりました（スマホを横にすると画面の組み方が変わります）。色使いも含めて、当院のイメージがよく伝わるように、HPを作っていました。

可愛いと評判（思い込み？）。内容も読みやすくなっています。

新HPの公開で分かったのですが、以前作っていた「質問に答えるコーナー」が、今でも訪れる方が多く（日本のみならず海外からも）、とても頼りにされているようです。当時は1日あたり3件ほどの質問をいただき、それに全て答えていました。数百タイトルあります。

過去の遺産と想っていた（というより自分でも存在を忘れていた）ものが、今でも生きていることを知りました。まだすべきことがたくさんありそうです。

新HPをどうぞご覧ください。

30年の歩み (4)

●1997年1月 テレビ出演

この冬はインフルエンザが大流行。新聞やテレビなどでは毎日のようにインフルエンザのことが取り上げられていました。

1月15日、NT 21（新潟テレビ21、今のUXテレビ）の番組「いきいきワイド」にて、スタジオでインフルエンザについて解説しました。NT 21には、以前に別の番組に出演したことがあり、それ以来時々声かけしてもらっていました。学問的に何かしているわけではないのに、いっばしの専門家きどりをさせていただき、申し訳ありません。

開業医の通常の仕事の範囲では、来院された患者さんや親御さんにお話をすることが中心です。でもせっかくなので、より多くの方に医療情報を提供しようと考えていて、「こども通信」を発行したり、「ヘルス・レター」というパンフレットをつくり配布しています。でも、こういった「紙媒体」での情報提供は限りがあります。

それに対してテレビやラジオという媒体は、情報が届く範囲が一挙に拡大します。当院と関係のない方々にもお伝えすることができるのは、やはり嬉しいですね。

「出たがり屋」と言われていますが、そうではなく「求められると断れない」性格なんです（笑）。

●1998年10月 学会出席

前回お話したように、当院は開業当初の医薬分業から院内処方に変更しました（1996年）。その方がより患者さんに優しい医療ができると思ったためです。

そのことをきっかけに、日本の医療制度について色々考えることがありました。国の政策として、日本の伝統的なスタイルである院内調剤をやめて、独立した調剤薬局に薬を任せるように誘導しています。実際に新規に開業する医療機関はほとんど医薬分業を採用するようになりました。でも、日本で行われつつある医薬分業が患者さんにとって利点があるのか、政策実行のための方法が正しいのか、様々な観点から論考してみました。

自費出版で医薬分業を問う論文を公表しましたが、それが各種メディアに取り上げられ、日本の医療界で大きな論争になりました（これ、本当の話です）。「メディカル朝日」という医学雑誌に、シリーズで執筆したこともあります（1997年10月号から4回、各4ページ）。

全日本病院学会では「医薬分業と調剤薬局の役割」というシンポジウムが企画され、私もパネリストとして招待されました（神戸市）。様々な問題提起をし、多くの議論が行われました。

その結果が目に見えて変わってきたということもないでしょう。でも、医療の基本を忘れた医薬分業にならないよう、私なりの提言をしていた時期でした。